



ごあいさつ

寒中お見舞い申し上げます。
平成17年(2005年)となって早くも1ヶ月が過ぎました。

昨年は年金制度改革において国内大いに議論が沸きました。国民が納得するものとは言えませんでした。また、気象観測史上最多の台風が日本列島を直撃し、能美島・江田島においても大きな被害があり、防災の大切さを痛切に感じました。

ここ10年間で地域防災の要である、消防団の高齢化が進み、広島県においても団員数が減少傾向が進んでおります。高齢化比率が進み、一人暮らしの高齢者の方々も年々増加しており、防災・防犯についての仕組再構築も地方自治体が早急に対処していかなければなりません。

国が推し進める平成の大合併によって、昨年11月1日に江能四町が合併して、新設：江田島市が誕生しました。文化の異なる四町がこれから一つになって、力をあわせて新しい街づくりをすることになりました。2000年4月に施行された地方分権一括法(475本の法律)によって地方自治法が全面的改正されて、制度的に【地方分権】が促進され、地方自治体の自己決定や自己責任を問われる領域が広く重いものとなりました。地方が国から自立することが求められたわけです。

また、小泉首相の下、2003年より「三位一体の改革」が推し進められております。この改革は「国庫補助金削減」と「税源移譲」、「地方交付税の見直し」を同時に進める改革です。つまり、2000年の地方自治法改正で行政制度改革を行い、第二段階として地方財政改革を進めるということになるわけです。国・地方を合わせた借金が700兆円を超えているといわれており、このままでは日本の行く末は厳しく、そのための三位一体改革といえます。

このような情勢の中、合併した江田島市は、これから5年が勝負の年であると私は考えます。行政・議会・市民が一体となって、厳しい現状を打開していかなければなりません。明るい江田島市の将来に向かって、住民の皆様とともに、考え・行動していこうと思います。

今後とも、より一層のご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

胡子雅信

ローカル・マニフェスト推進ネットワーク中国大会



2005年1月29日に三次まちづくりセンターで開催されました『ローカル・マニフェスト推進ネットワーク中国 設立大会』に参加してきました。

ローカル・マニフェストとは、地方選挙の候補者(特に知事・市町村長)が、なに(政策課題)を、いつまでに(期限)、どこまで(数値目標)、どのようにして(財源・手法)実行するのかを住民の皆様にご約束する政権公約といわれております。

片山善博鳥取県知事(右写真)が、壇上で言われたこととして、これからの地方自治体の首長に必要なこととして、

透明性を徹底：情報公開など
自分で考え、自分で行動
公平性の堅持：自らをチェックしてもらう
の3つが大切である、ということです。



また、北川正恭 早大大学院教授(前三重県知事、写真下)が壇上において、地方分権について、これまで3回の大きな流れがあり、今が大切なときであると言われました。



1970年代後半

長洲一二神奈川県知事が提唱した『地方の時代』の創造

1980年代後半

中曽根内閣における総合地域整備法(リゾート法)、首都機能移転論(東京一極集中排除)

2000年代初頭

地方分権一括法の制定

地方財政構造改革(三位一体改革)

今、地方が国から求められているものは、国からの自立であり、地方が自分たちで考えて行動していかなければならない、ということです。選挙のための選挙公約ではなく、地域住民との契約であるローカル・マニフェスト(政権公約)を推進していこう、という運動が、今後、全国的に活発化するものと予測されます。

地方議会においても、条例制定権がある立法機関であり、提案型の議会運営をより活発にしていかなければなりません。また、議会は地方自治法の改正による『機関委任事務』の廃止によって、原則として自治体の事務全般に検査、監査、調査などさまざまな権限が及ぶことになりました。チェック機能としての地方議会の責任も増大しました。

谷川和穂氏を囲む会



2005年2月5日、NPOひろしま青年円卓会議代表、豊島岩白氏(32歳)が世話人として主催されました『谷川和穂氏を囲む会』に出席しました。

谷川和穂氏(写真左)は、1930年(昭和5)7月21日生まれの75歳。前衆議院議員(当選12回)で文部政務次官、防衛庁長官、法務大臣などを歴任され、2003年10月10日、惜しまれつつも自民党比例区定年制により73歳で政界引退表明されました。

谷川氏は講演において、文部政務次官、防衛庁長官などの経験を踏まえて、これからの教育の在り方や防衛問題についてお話されました。また、現在、自由民主党憲法調査会顧問としてご活躍であり、いま議論伯仲の改憲論議や中国についても触れられ、大変貴重な時間を過ごしました。

講演会後の懇親会では、谷川氏とこれからの地方についてお話させていただき、同氏の暖かい人柄に触れることが出来ました。

選挙区設置について

去る1月24日、江田島市議会が全員協議会を開き、合併特例法の在任特例で11月までに実施される初の市議選(定数26)について、旧四町単位で選挙区を設けることを決めました。

なお、定員については、平成12年度国勢調査の人口に基づいて、江田島町10、大柿町8、能美町5、沖美町3。選挙区設置条例案は次回の市議会に上程される予定です。



深江地区トンド大会

1月8日に旧深江小学校で、深江地区のトンド祭りがありました。昨年に引き続いて参加させていただきましたが、このような行事は今後も続けていきたいものです。

今年一年の皆様方の無病息災をお祈り申し上げます。

若手市会議員とのネットワーク創り

広島県青年連合会会長の安岡儀暁氏(35歳)のコーディネートによって広島県の若手市議会議員や政治を志す若手のネットワークを創ろう、ということになりました。

1月上旬に安岡氏と寺岡公章大竹市議(31歳)が大柿町に来てくださり、大粋を話し合いました。2月4日に安岡氏、寺岡大竹市議、福岡誠司三次市議(29歳)と広島で会合をもち、同世代の思いを同じくするメンバーのネットワーク創りをすることで意気投合。

2月8日には、上述メンバーに森本真治広島市議(31歳)を交えて、会の趣旨や活動についてさらに議論を深めました。

20、30代の若手市議は、やはり、これからの地方自治についての危機感をもっており、同世代で意見交換や勉強会を通して、互いに切磋琢磨し、よりよい地域づくりをしていこう、ということになりました。

それぞれ異なる地域の議員であり政治を志すメンバーですが、思いはひとつであり、20年後、30年後に責任の持てる地域づくりを地域の皆さんと創っていききたい、ということです。三位一体の改革が推し進められているなか、地方の自立が求められており、地方自治体がその体制作りをすることが急務となってきました。行政・議会・住民が一体となって、これからの地方自治を確立していかなければなりません。

今年4月、会発足を検討しております。今後の活動にご期待ください。

後援会に参加し、活動を支えていただけませんか？

胡子雅信後援会事務所 (大柿町公民館より徒歩1分)

住所: 〒737 - 2213

江田島市大柿町大原546 - 6 胡子ビル1F

電話: 0823 - 57 - 2184 ファックス: 0823 - 57 - 2357

ホームページ: <http://homepage3.nifty.com/ebisu7/>

E-MAIL: ebisu7@nifty.com

後援会規約(抜粋)

本会は、胡子雅信氏の政治活動を後援し、かつ、会員相互の親睦を深めることを目的とします。

本会は、前条の目的を遂行するため、次の事業を行います。

- 1 講演会・座談会などの開催
- 2 会報などの発行および配布
- 3 関係諸団体との連携
- 4 その他本会の目的に関連する事業

本会の経費は、会費・寄附金その他の収入をもって充当します。